

国際セミナー「日米中関係と東アジア地域の安定性」

2014年10月17日(金)

京都産業大学・むすびわざ館

日米関係とアジア地域の安定性

[コメント: 日米同盟とアジアの安定]

京都産業大学・世界問題研究所

教授 岩本誠吾

1. 日米安全保障体制の変遷

- 1951: (旧) 日米安全保障条約
- 1960: (新) **日米安全保障条約**
- 1970: 日米安全保障条約の自動延長

- 1978: **日米防衛協力のための指針(ガイドライン)**
(The Guidelines for Japan-U.S. Defense Cooperation)
背景: 冷戦期でソ連の日本・北海道侵攻を想定
- 1997: **日米防衛協力のための指針改正**
背景: 台湾・朝鮮半島での武力紛争を想定
内容: 日米協力: ①平時、②日本有事、③周辺事態

・2014/10/8:

日米防衛協力のための指針の**見直し**に関する**中間報告**

(The Interim Report on the Revision of the Guidelines for Japan – U. S. Defense Cooperation)

17年ぶりの見直し、2014年末に再改正の予定

背景: 中国の急速な海洋進出、北朝鮮のミサイル開発

米国のアジア太平洋重視戦略

(再均衡政策Rebalancing)

日本の積極的平和主義

(Proactive Contribution to Peace)

内容: グローバルな対米支援・連携

平時から有事まで**切れ目のない(seamless)**連携

2. 日米安保体制をどう見るか？

- ・日本の見方：

日本、アジア太平洋地域、世界全体の安定と繁栄のための**公共財(public goods)**『防衛白書2014年版』

- ・中国の見方：

中国は日米の安保協力強化の仮想敵にされた
日米共同**覇権**の思想、新**干渉主義**

『人民網・日本語版2014年10月9日付』

- ・東南アジア諸国の見方：

アジア地域の **balanサー(balancer)**？

3. 中国の日米同盟に対する見方の変遷

- ~1970: 日米安保条約に**反対**・破棄要求
- 1970~: 中ソ対立・1970の米中接近、1972の日中国交正常化・**瓶の蓋論**で、日米安保体制の**容認**
1978/1982の鄧小平発言の**積極的容認**
「日本と米国との同盟関係強化を歓迎する」
- 1996~: 96の日米共同宣言・97のガイドラインで、批判
消極的容認
(二国間の合意、第三国の利益を損なうべきではない)
- 2010~: 2010の漁船衝突事件、2012の尖閣諸島問題
消極的容認 or 積極的批判?

4. アジア地域の安全保障の新たな動き—信頼醸成措置 (Confidence Building Measures, CBM)

▪ 2014/4/21-25:

中国・青島での西太平洋海軍シンポジウム(21か国)

(Western Pacific Naval Symposium)

海上衝突回避規範をコンセンサスで採択

(Code for Unplanned Encounters at Sea, **CUES**)

▪ 2014/6/26-8/1:

ハワイ周辺海域で環太平洋合同演習(23か国)

(Rim of the Pacific Exercise, **RIMPAC**)

艦艇47隻、潜水艦6隻、戦闘機200機、兵士25,000名

中国初参加: 1,100名、駆逐艦「海口」、フリゲート「岳陽」、
補給艦「千鳥湖」、病院船「和平箱舟」

5. まとめにかえて

- ・日米安保体制による抑止力の強化(≠攻撃力の強化)
 - ・アジア地域の信頼醸成措置の形成⇒軍備管理・軍縮
- ⇒抑止力と信頼醸成措置の両立性

ご清聴、ありがとうございました。